

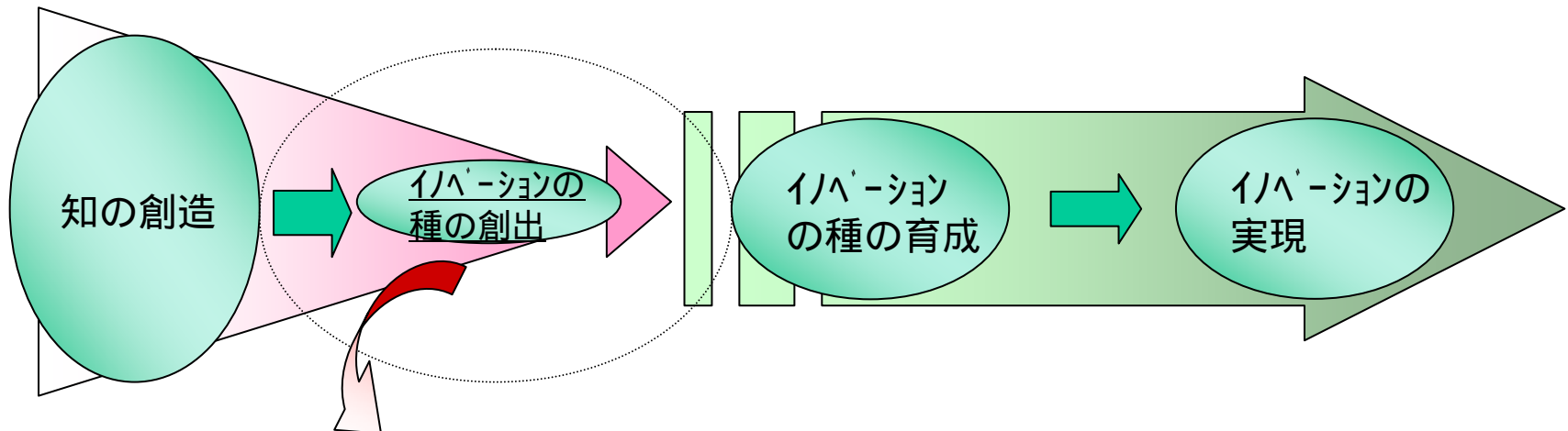
# イノベーション創出に向けたわが国の課題

2006年11月20日

(社)日本経済団体連合会  
科学技術政策部会長  
(株)東芝 常任顧問  
笠 見 昭 信

# わが国のイノベーションプロセスの弱点

「知の創造」を「イノベーションの種」につなげる  
パイプが細い



## 処方箋

1. 産学の相互理解と将来ビジョンの共有
2. 世界トップレベルの研究拠点の育成
3. 戦略重点科学技術と人材育成の一体的推進

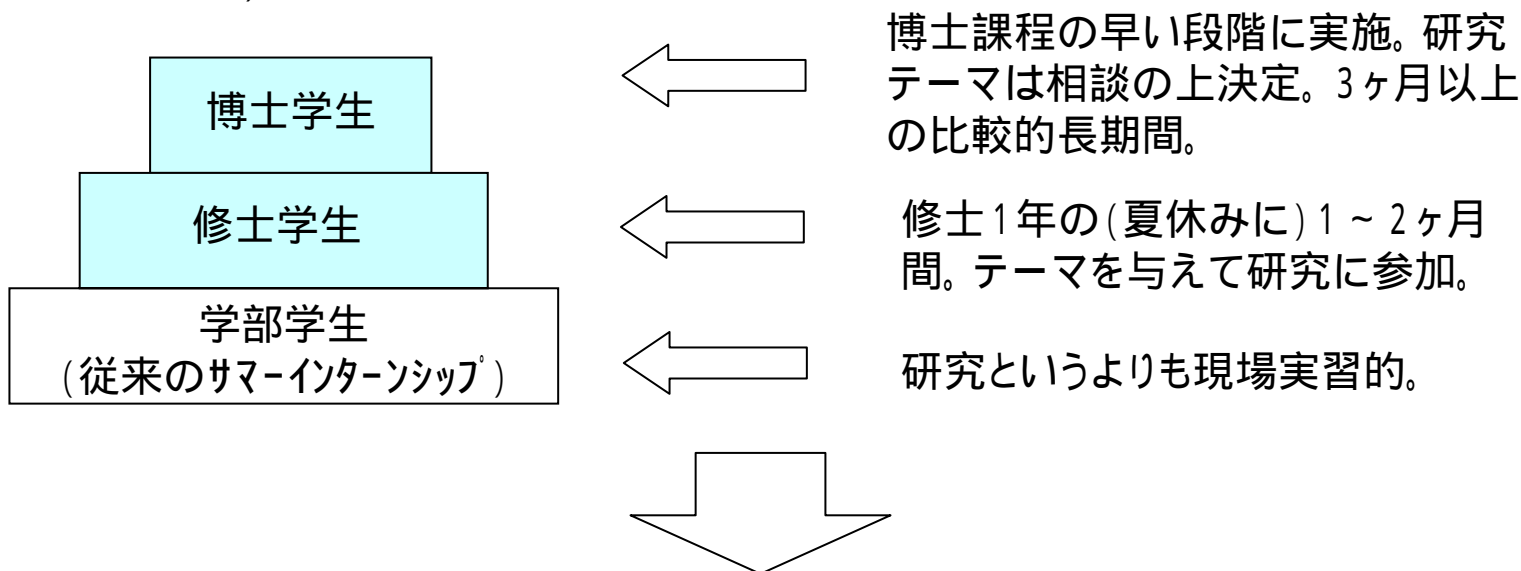
# イノベーション創出に向けて(1) —産学の相互理解と将来ビジョンの共有—

## 研究現場の組織(学)と組織(産)の交流

### 【東芝の事例 「研究インターンシップ」】

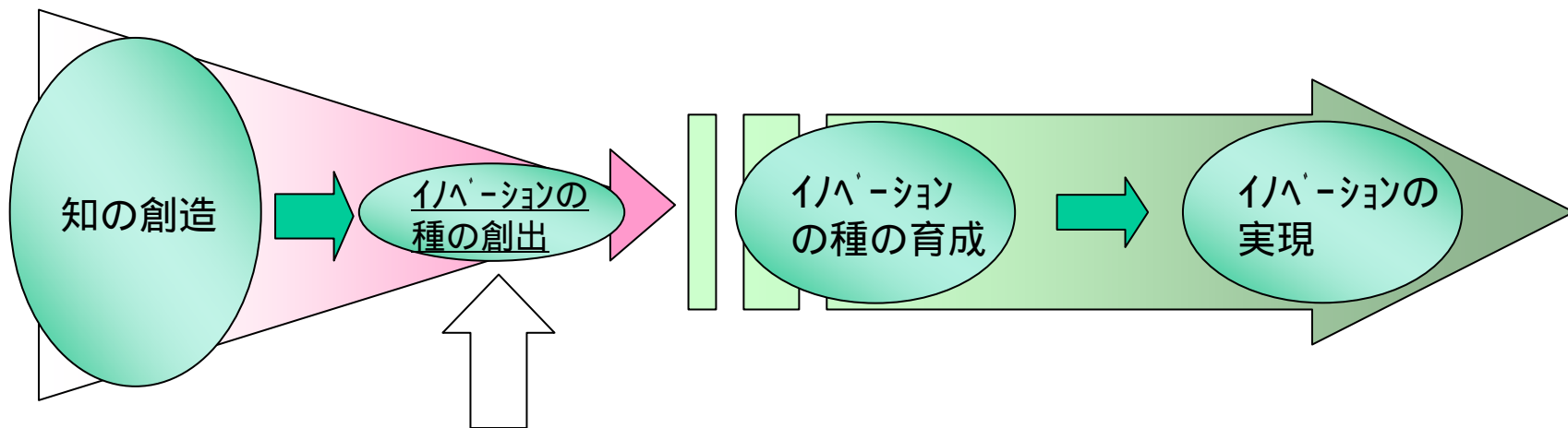
院生を対象に研究中心のインターンシップ。

公募ではなく、対象大学、部門限定。大学と企業の組織同士による取り組み(7大学、15研究科と実施)



こうした取り組みを通じて、将来ビジョンも共有  
(今後、若い先生の企業体験に発展することも期待)

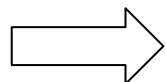
# イノベーション創出に向けて(2) ー世界トップレベルの研究拠点の育成ー



10～15年後の社会・経済の姿を描きながら、世界的に重要で、21世紀のキーとなる技術領域を拓く基礎研究を大学中心に行なう。

大学内はもとより、産業界も含めて、有能な研究者による知恵の交流が鍵。

有能な研究陣(含む異分野)を結集したチームによる研究。



拠点形成を通じた人材育成にも有効

# イノベーション創出に向けて(3) ー戦略重点科学技術と人材育成の一体的推進ー

---

## 1. イノベーション・システムの構築

戦略重点科学技術(群)がイノベーションを生み出す道筋  
(基礎研究から市場化まで一貫した取り組み 等)

総合科学技術会議における司令塔機能の強化

規制緩和、政府調達

公的研究機関の役割

## 2. 人材育成もイノベーション・システムと一体的に推進

(1) 10年後の産業競争力は人材。

(2) 世界は「大学での人材育成・研究とイノベーションの創出を一体的に推進する」という強い意思で大きく動いている。

以上